



No. 11

（関西）共産主義者
同盟政治機関紙
編集発行人・安達
元
連絡先・京都市上京区烏
丸今出川 同志社大構内
京都府学
部

万国のプロレタリアート
団結せよ！
戦闘的労働者・学生は
共産主義者同盟に結集せよ！

全学連の再建をかちとろうよ！

憲法闘争にそなえよ！

安保闘争の不幸な主役「全学連」の分裂とそれをもたらす危機が、現在ますます深刻さを増してきている。様々な派閥を醸成して、様々な「全学連再建」を主張する者が出てきた。これらは単に「全学連」を再建しようとするのみならず、「全学連」の分裂を阻止し、その機能を回復しようとするものである。これは単に「全学連」の再建を目的とするのではなく、その分裂を阻止し、その機能を回復しようとするものである。

「全学連」の再建を主張する者の中には、その分裂を阻止し、その機能を回復しようとするものである。これは単に「全学連」の再建を目的とするのではなく、その分裂を阻止し、その機能を回復しようとするものである。

安保闘争の不幸な主役「全学連」の分裂とそれをもたらす危機が、現在ますます深刻さを増してきている。様々な派閥を醸成して、様々な「全学連再建」を主張する者が出てきた。これらは単に「全学連」を再建しようとするのみならず、「全学連」の分裂を阻止し、その機能を回復しようとするものである。

「全学連」の再建を主張する者の中には、その分裂を阻止し、その機能を回復しようとするものである。これは単に「全学連」の再建を目的とするのではなく、その分裂を阻止し、その機能を回復しようとするものである。

野合した構改派と議会主義
社会党 憲法論と憲法闘争
憲法をめぐって

野合した構改派と議会主義
社会党 憲法論と憲法闘争
憲法をめぐって

野合した構改派と議会主義
社会党 憲法論と憲法闘争
憲法をめぐって

野合した構改派と議会主義
社会党 憲法論と憲法闘争
憲法をめぐって

野合した構改派と議会主義
社会党 憲法論と憲法闘争
憲法をめぐって

野合した構改派と議会主義
社会党 憲法論と憲法闘争
憲法をめぐって

野合した構改派と議会主義
社会党 憲法論と憲法闘争
憲法をめぐって

野合した構改派と議会主義
社会党 憲法論と憲法闘争
憲法をめぐって

野合した構改派と議会主義
社会党 憲法論と憲法闘争
憲法をめぐって

野合した構改派と議会主義
社会党 憲法論と憲法闘争
憲法をめぐって

野合した構改派と議会主義
社会党 憲法論と憲法闘争
憲法をめぐって

野合した構改派と議会主義
社会党 憲法論と憲法闘争
憲法をめぐって

バックナンバーあり
一部十円・半年百二十円
下料八十円

烽火
（半月刊）

選挙闘争の実際 腐敗と悪臭の充満

選挙書記の告白

本紙第10号(五月一日発行)の地方選挙に関する論文を、また「労働者から、編集局に次のような手紙が、寄せられた。ここに全文を掲載する。(編集局)

選挙一〇号の地方選挙に関する文章をよんで、いろいろと考えさせられました。私もこの地方選挙に加わった一人として私は私なりにここに書いてみたいと思います。

私が選挙を始めた都市は、人口十三万の都市で、近代的に生まれ変わったような都市です。有権者は六万二千で、立候補者は四一七名でした。

選挙の内幕は、自民、社会

一般的前提

国家独占資本主義は、前回の述べた如く、第一次大戦とロシア革命による資本主義体制の全般的危機の深化と、産業資本主義における自由放任制のゆるぎのなかから生じた所の資本主義生産様式の延長形である。それは労働運動に対しては、弾圧という点で、また懐柔という点で、労働関係への国家の広汎な介入を招くものである。

国家独占資本主義のもとでの労働運動は、独占資本主義の成立とともに、従来のクラフトユニオンから産業別組合へと発展した所の

総合的、階級的視野の確立を

労働運動の理論 (3)

国家独占資本主義と労働運動 (つづき)

全体を代表すべきない産別組合

資本は帝国主義の危機の中で、産別組合を体制内に引きこめ、国家独占資本主義の管理通貨制度と財政政策で、完全雇用の政策を

展開、ホワイトカラーの増大等に

よる。いわゆる組合の委員長クラフトの発言も、それは明らかに組合に推せん依頼をとりに行くと、組合に推せんをもらえばそれでよい、もらえない場合は、資本家が組合からの推せんをとれるように努力する。その結果、資本家の指令が、出れば推せんに加わる組合もある。組合も組合なら新と自称するこの候補者も候補者である。

なせ、このように気がいらぬまで立候補するのかわ、なせ莫大な金を使って立候補するのか。金だ目的は金以外の何物でもない。

地方議員の給料の平均は五万五千円である。ところが二年たれば、選挙の費用は充分、とりかえさせるという。これは明らかに組合に推せん依頼をとりに行くと、組合に推せんをもらえばそれでよい、もらえない場合は、資本家が組合からの推せんをとれるように努力する。その結果、資本家の指令が、出れば推せんに加わる組合もある。組合も組合なら新と自称するこの候補者も候補者である。

かかして、労働運動の内部には部分的要求の重要性の強調と、その理論化と、そしてその状況の数十年先までの無変化の前提が支配的になる。

国家独占資本主義の労働運動の、体制内の性格が支配的となる。日本資本主義のセイジャン経済政策は、より露骨な国家権力の介入とその反映として、階級闘争のつよさを内に含んではいないが、徐々に「右旋回」の名のもとに体制内への傾向がますます強まっていることは疑いなく、われわれが現代における労働運動の問題として、その展望を明らかにする第一の条件となるのは、かかして総合的視野の確立、階級的視野の確立である。(A)

必要なもの
は何か

遅刊のあわび

展開し、軍事経済とも結合し、一定の効果を上げて来た。だが、国家独占資本主義のもとでのオートメーションの発展は、今日巨大企業の発展をもたらした。化学産業の発展を軸に世界的に新産業体制をつくりあげていく。

このオートメーションは、大量のオートメーションを、また第三次産業部門やホワイトカラーをつくりだした。実にホワイトカラーを加えたアメリカ労働者の組織率は30%、日本の場合は34%となっている。おまけに、労働者への国家権力の介入として、完全雇用の政策として展開され、労働運動をその体制内に引きこめようとするのは当然であり、産業別労働組合運動は、その意味で体制内の自己完結的な性格をもっている。その思想的表現が、いわば「労働組合主義」、労働組合の基本的機能「賃金水準の引き上げと完全雇用の実現」の理論である。だが、労働者はむしろ「組合に組織されていく多数として存在している。組織労働者が、その全体の位置、その比重を極めて低下させているのである。かつて、ファシズムの危機のもとでも全体を代表するところの産別組合は、更に現在では、構造的にも、巨大独占の形成による企業規模の格差拡大で、一般労働者の発展、ホワイトカラーの増大等に

よる。いわゆる組合の委員長クラフトの発言も、それは明らかに組合に推せん依頼をとりに行くと、組合に推せんをもらえばそれでよい、もらえない場合は、資本家が組合からの推せんをとれるように努力する。その結果、資本家の指令が、出れば推せんに加わる組合もある。組合も組合なら新と自称するこの候補者も候補者である。

なせ、このように気がいらぬまで立候補するのかわ、なせ莫大な金を使って立候補するのか。金だ目的は金以外の何物でもない。

国家独占資本主義の労働運動の、体制内の性格が支配的となる。日本資本主義のセイジャン経済政策は、より露骨な国家権力の介入とその反映として、階級闘争のつよさを内に含んではいないが、徐々に「右旋回」の名のもとに体制内への傾向がますます強まっていることは疑いなく、われわれが現代における労働運動の問題として、その展望を明らかにする第一の条件となるのは、かかして総合的視野の確立、階級的視野の確立である。(A)

必要なもの
は何か

遅刊のあわび

遅刊のあわび

展開し、軍事経済とも結合し、一定の効果を上げて来た。だが、国家独占資本主義のもとでのオートメーションの発展は、今日巨大企業の発展をもたらした。化学産業の発展を軸に世界的に新産業体制をつくりあげていく。

このオートメーションは、大量のオートメーションを、また第三次産業部門やホワイトカラーをつくりだした。実にホワイトカラーを加えたアメリカ労働者の組織率は30%、日本の場合は34%となっている。おまけに、労働者への国家権力の介入として、完全雇用の政策として展開され、労働運動をその体制内に引きこめようとするのは当然であり、産業別労働組合運動は、その意味で体制内の自己完結的な性格をもっている。その思想的表現が、いわば「労働組合主義」、労働組合の基本的機能「賃金水準の引き上げと完全雇用の実現」の理論である。だが、労働者はむしろ「組合に組織されていく多数として存在している。組織労働者が、その全体の位置、その比重を極めて低下させているのである。かつて、ファシズムの危機のもとでも全体を代表するところの産別組合は、更に現在では、構造的にも、巨大独占の形成による企業規模の格差拡大で、一般労働者の発展、ホワイトカラーの増大等に

よる。いわゆる組合の委員長クラフトの発言も、それは明らかに組合に推せん依頼をとりに行くと、組合に推せんをもらえばそれでよい、もらえない場合は、資本家が組合からの推せんをとれるように努力する。その結果、資本家の指令が、出れば推せんに加わる組合もある。組合も組合なら新と自称するこの候補者も候補者である。

なせ、このように気がいらぬまで立候補するのかわ、なせ莫大な金を使って立候補するのか。金だ目的は金以外の何物でもない。

国家独占資本主義の労働運動の、体制内の性格が支配的となる。日本資本主義のセイジャン経済政策は、より露骨な国家権力の介入とその反映として、階級闘争のつよさを内に含んではいないが、徐々に「右旋回」の名のもとに体制内への傾向がますます強まっていることは疑いなく、われわれが現代における労働運動の問題として、その展望を明らかにする第一の条件となるのは、かかして総合的視野の確立、階級的視野の確立である。(A)

必要なもの
は何か

遅刊のあわび

遅刊のあわび

遅刊のあわび

遅刊のあわび

展開し、軍事経済とも結合し、一定の効果を上げて来た。だが、国家独占資本主義のもとでのオートメーションの発展は、今日巨大企業の発展をもたらした。化学産業の発展を軸に世界的に新産業体制をつくりあげていく。

このオートメーションは、大量のオートメーションを、また第三次産業部門やホワイトカラーをつくりだした。実にホワイトカラーを加えたアメリカ労働者の組織率は30%、日本の場合は34%となっている。おまけに、労働者への国家権力の介入として、完全雇用の政策として展開され、労働運動をその体制内に引きこめようとするのは当然であり、産業別労働組合運動は、その意味で体制内の自己完結的な性格をもっている。その思想的表現が、いわば「労働組合主義」、労働組合の基本的機能「賃金水準の引き上げと完全雇用の実現」の理論である。だが、労働者はむしろ「組合に組織されていく多数として存在している。組織労働者が、その全体の位置、その比重を極めて低下させているのである。かつて、ファシズムの危機のもとでも全体を代表するところの産別組合は、更に現在では、構造的にも、巨大独占の形成による企業規模の格差拡大で、一般労働者の発展、ホワイトカラーの増大等に

よる。いわゆる組合の委員長クラフトの発言も、それは明らかに組合に推せん依頼をとりに行くと、組合に推せんをもらえばそれでよい、もらえない場合は、資本家が組合からの推せんをとれるように努力する。その結果、資本家の指令が、出れば推せんに加わる組合もある。組合も組合なら新と自称するこの候補者も候補者である。

なせ、このように気がいらぬまで立候補するのかわ、なせ莫大な金を使って立候補するのか。金だ目的は金以外の何物でもない。

国家独占資本主義の労働運動の、体制内の性格が支配的となる。日本資本主義のセイジャン経済政策は、より露骨な国家権力の介入とその反映として、階級闘争のつよさを内に含んではいないが、徐々に「右旋回」の名のもとに体制内への傾向がますます強まっていることは疑いなく、われわれが現代における労働運動の問題として、その展望を明らかにする第一の条件となるのは、かかして総合的視野の確立、階級的視野の確立である。(A)

必要なもの
は何か

遅刊のあわび

遅刊のあわび

遅刊のあわび

遅刊のあわび

トロツキー選集第八巻「スペイン革命と人民戦線」

人民戦線の本質の暴露

革命を絞殺したスターリニズム

トロツキーは、かかる路線こそはまきくヒトラーの権力への道を、はきよめる以外のなにものでもないことを指摘し、精神的な論議をはずした。(本選集第七巻) 事実、ヒトラーは、この社会ファシズム論に側面援助されて権力を獲得し、そして権力を握るや一挙にドイツ共産党を粉砕したのである。

かくして、新たに登場してきた戦略が「人民戦線」なのである。ファシズム反対、民主主義の擁護、というのがこの人民戦線の旗印である。この旗印のもとに彼らは今や、かつての社会ファシスト社会民主主義者や無条件に手をむすぶべきなか、ブルジョア政党政と手をむすぶしたのである。

闘争を民主主義 各国共産党は、この資本主義のスターリニズムの苦悶がなにか、民主主義を対置したのである。彼らは自己の目標を「民主主義」にのみ限定し、社会主義の問題は民主主義が確保されれば後の問題として、不足の未来に追いやってたのである。

そしてまた、これはスターリンの外交政策に完全に一致した路線でもあった。ソ連を守るためには、とにかく、反ファシズムの運動を展開されればよいのであって、戦線が広げられればよいとされたのである。

トロツキーは、この人民戦線は社会ファシズム論のうらみかえしであることを明らかにし、スターリニズム・各国共産党をきびしく糾弾している。

ファシズムに対する闘いが、民主主義的要求をもつて自然発生的に展開されているが、この闘争をプロレタリア指導部は社会主義への一連の過程として位置づけなければならない。それこそが、真の前衛の任務なのだ。

フランスにおけるアルム内閣の崩壊、スペインにおけるフランコの勝利は、トロツキーの批判の正しさを、悲劇的に、証明したものである。

激しく流動し、階級闘争のほとんど化した情勢は、決して、ブルジョア民主主義の擁護の段階で固定化しない。革命は中間でとまりはしない。それは敗北が勝利の決着を要求するのだ。これこそ、激動期における階級闘争の、鉄の必然をもった論理なのだ。

スターリニズム このことを直感的に把握したプロレタリアートの革命の挫折、人民戦線のワグをのりこえようとした。だが社会はもとより、共産党はこれをおさぐる要求をブルジョア民主主義のワグの中に限定するに狂弁したのである。

スペインでは、ゲ・ペー・ウィーの連秘警察が、おどろきまわす多くの革命的労働者が「党警察」や「党刑務所」に引きこまれ、そこで生命をなくしていったのである。

現在、公認の共産主義指導部は、この人民戦線をバラ色に描き、それがあたかも、巨大な成果を収めたかのように宣伝している。

だが歴史は、人民戦線の崩壊を宣言し、決してその勝利を刻んではいない。われわれは、スターリニズムによってねつそうされなければならない。われわれは「革命の挫折」を発見するのである。

しかも現在、公認の運動路線がこの人民戦線論にもとづいて打ち立てられている以上、われわれのこの解明は、きわめて現代的な意義をもっており、人民戦線の検討は、どのようおさず、現代革命の検討であるというべきではない。

私は、トロツキー選集全十二巻の中で、この巻こそ最も重要な巻であると考えている。

(本田弘)

☆現代思潮社刊・六五〇円

遅刊のあわび